

一般社団法人茨城県経営者協会



インタビューに答えるひので・瀧社長



常磐大学で講演するブックエース・奥野社長



常磐大学で講演する東日本技術研究所・田山常務(左)、安島取締役(右)



国内視察会の模様 出雲大社にて



茨城経協

## CONTENTS

### 01 トップインタビュー Vol.38

「さつまいもの魅力を全国そして海外へ  
事業の多角化もすべては『農家のために』」  
株式会社ひので 代表取締役 瀧 喜一氏

### 05 寄付講座(常磐大学)講演録

- ・「ブックエースのビジョンと社会で働く意義」  
㈱ブックエース 代表取締役社長 奥野 康作氏
- ・「東日本技術研究所の経営理念と社会で働く意義」  
㈱東日本技術研究所 常務取締役 田山 治氏  
取締役 安島 宜績氏

### 07 委員会報告

総務委員会／経営教育委員会／産業政策委員会

### 11 支部だより

常陸・那珂地区支部／鹿行地区支部

### 13 寄稿 日本貿易振興機構茨城貿易情報センター所長 木ノ本 知弘氏 「多様な官民プラットフォームを活かして茨城を元気に」

### 14 NPO情報Vol.228<茨城NPOセンター・コモンズ代表理事 横田 能洋氏>

### 16 セミナー・事業のご案内

株式会社 ひのでや  
代表取締役

## 瀧 喜一氏

聞き手：船橋信正氏  
(社会保険労務士法人 齋藤・船橋労務相談事務所)



### 会社概要

- 所在地／茨城県かすみがうら市深谷381-1
- TEL／029-840-8080
- 業 種／さつまいも、ごぼう他農産物の生産・加工・販売
- 従業員／75名
- H P／<http://www.hinodeya.biz>

## さつまいもの魅力を全国そして海外へ 事業の多角化もすべては「農家のために」

### 瀧社長の生い立ちと「ひのでや」 との出会い

船橋：最初に、瀧社長の生い立ちを教えてくださいませんか。

瀧：私は昭和29年に今のつくば市で生まれました。大きな転機としては、15歳の時に親父が癌で急死しましてね。長男ですので、祖母と病気がちな母、4人の弟と妹を養わなければなりません。それで入学したばかりの県立高校を辞めまして、親父のわずかな生命保険を元手に、スイカやメロンを農家から仕入れて業者に売るといいう仕事を始めたんですよ。最初は自転車で農家から買って歩きました。16歳になったらバイクで営業するようになってだんだん取引量も大きくなっていきました。人も雇えるようになって、20歳の頃は大型トラック10台ぐらい使えるまでに成長しました。

船橋：わずか数年でそこまで成

長させたとは凄いですね。

瀧：あのころは夜も寝ないで走り回ってました。おかげで、家も建てることができ、家族を養える目途が立ちました。

船橋：その時の事業は「ひのでや」の前身ではないのですよね。

瀧：当時、「ひのでや」はスイカやメロンの販売先の一つでした。ずっと取引してましたから、「ひのでや」の仕事の流れは分かっていたし、当時の社長とも気心は知れていました。それで、25歳の時、社長の一人娘と結婚して婿養子に入ることになって、「ひのでや」の一員になりました。

船橋：先代の社長から多くを学んだそうですね。

瀧：はい。本当の子供のように育ててくれましたし、いつも一緒に連れて歩いてくれて商売に対する姿勢その他いろんなことを教わりましたね。

船橋：何かエピソードを教えてくださいませんか。

瀧：40年程前の出来事ですが、気温が上がらずスイカの出来が悪い年がありました。出来が良くないから農家も金額を叩かれてしまうわけです、農協などから。でも、先代の社長は、「それではだめだ、農家も経費かけて作ってるんだから、うちは農家の『損失』も買うんだ」と言っただけでね。結局、農家が採算割れしない程度の代金を払って買いました。その年は二束三文でスイカを売り歩いた記憶があります。しかし、その翌年、一転して猛暑となりスイカがすごく売れて値段も高騰しました。当然スイカは品薄になるんだけど、去年のことがあるから農家の皆さんは「ひのでや」に優先的にスイカを売ってくれるわけです。ああ、こうやって商売はやるんだなって実感しました。契約農家

を大切にする姿勢は今も変わらず受け継いでいます。

また、会社の経営理念でもあり、私のモットーでもあるのが、「笑顔で和をもって」です。これも先代の社長から教えてもらったようなものです。この仕事は、収穫時期が大変忙しく、当時は日が変わるまで積み込み作業が続くこともしばしばありました。ある時、私が不平を言いながら積み込みの仕事をしていると、先代から「トップが疲れた顔をしていると従業員も疲れ、会社の活気もなくなる。笑顔でいる。」と叱られました。ああ、その通りだと思いましたし、今もそう思います。やっぱり、トップが暗い顔をしていると会社が暗くなる、そうすると社員間の争いも起きやすい。社員がしょっちゅう喧嘩しているような会社は絶対良くはならないでしょう。そうではなくて、社員皆が笑顔でいられるようならば和が生まれます。協力し合い高め合っていける。これは社内だけではなく、生産者から加工、流通、販売を通じて消費者まで「笑顔」と「和」でつないでいきたいという思いも込めたモットーです。

**船橋**：その先代の社長も早くに亡くなってしまうのですね。

**瀧**：はい。私が25歳で「ひのでや」に来た時にはもう、先代の社長の具合はあまり良くなく、入退院を繰り返してました。当時、社員は7～8人ぐらいしかなくて、片腕になるような番頭さんもいなかったから、本業の商売に加え、銀行との折衝や資金繰りなどすべて一人でやらなくてはならず、心身ともに負

担は大きかったのだと思います。それで、結局、私が30歳の時に亡くなってしまいました。50歳でした。

**船橋**：社長の体調がすぐれないときは大変だったでしょう。

**瀧**：トップの具合が悪くなると、取引先や銀行など各方面から不安がられてしまう。経営者が健康だというのは非常に大事だと思いました。だから、私は健康には相当気を配っています。それから、社長一人に業務が集中しないよう、何でも下の者に教えて任せるように意識しています。

**船橋**：先代が亡くなってすぐ社長に就かれたのですか。

**瀧**：はい。30歳で社長になりました。

### 事業の変遷と拡大

**船橋**：「ひのでや」さんの事業の変遷などを教えていただけますか。

**瀧**：先代の父が戦前の食糧不足の時代だった昭和15年に創業しました。当時は、現在のJR神立駅から北海道や東北へ貨車でさつまいもを出荷するという事業でした。私が「ひのでや」に入った時も、基本的には農産物を農家から買って売るという

事業でした。現在はさつまいもが主力で8割を占めますが、当時は、夏にはスイカやメロン、秋には梨や栗、そして冬にはさつまいもそれからレンコンなどを扱っていました。まだ大した倉庫がなかったため、農家から運んでそのまま売ってというスタイルでした。取り扱う量も今よりはだいぶ少なく、分かりやすく言うと、当時の年商が今の月商と同じくらいという感じがですね。今は事業が多角化しているので、従業員数も75名ほどいますが、当時は10人いるかいないかだったと思います。

**船橋**：多角化とのお話が出ましたが、ここ10年ほどでしょうか、定温倉庫を設けたり加工品を始めたりいろいろなことに取り組まれていますね。定温倉庫というものはとても重要なのですか。

**瀧**：美味しいさつまいもを年間通して安定供給するために定温倉庫はもちろん重要なのですが、それ以外にも熟成という目的があります。さつまいもの収穫時期は秋ですね。ところが、9月ごろのさつまいもって、全然甘くないんです。糖度が8度ぐらいしかない。ところが、収穫して少し経つと甘くなってく



左・インタビュアーの船橋氏

る。11月になると糖度が15度にもなってくるんです。だけど、消費者が一番さつまいもを食べたい時期は10月だったりする。だから、1年間寝かせたさつまいもを販売したりしています。また、キヤリングという蒸気処理を施すことができる倉庫を当社は多数持っていますが、さらにキヤリングをすることでさつまいもは糖度をいっそう増し、焼きいもに大変適したさつまいもになっていきます。

**船橋**：糖度はそんなに変わるんですね。最近では海外へも出荷されているようですね。

**瀧**：生芋や熟成焼きいもを急速冷凍して長期保存を可能とした「冷凍焼きいも」をシンガポールやタイなどへ出荷しています。おかげさまで出荷量は好調に伸びています。また、茨城県の支援事業などを活用させていただき、東南アジア各国の商談会・展示会に参加しています。昨年は、ASEAN市場最大の日本食品総合見本市「フードジャパン」にも出展いたしました。いずれも「本当においしいさつまいもを世界にも広めていきたい」という思いから行動しています。

**船橋**：加工品についても積極的に展開されているようですね。2016年にはお菓子の直営店を開店されました。

**瀧**：はい。「紅はるか」など本県産のさつまいもの魅力を知っていただくことに加え、消費者の方々の好みも知りたいと考え、本社近くに「お芋屋さんのお店 サンパタータ」をオープンしました。現在は、埼玉県越谷市のレイクタウン内にも出店しています。サンパタータでは、さつ



まいもを材料にしたお菓子を多数ご用意しており、なかでも「熟成焼きいも」は大変好評です。

**船橋**：芋焼酎も作られていますね。

**瀧**：はい。ただ、単なる芋焼酎ではなく熟成焼きいもの焼酎です。かすみがうら市産「紅はるか」を特別貯蔵庫で1年以上熟成させ、専用焼きいも機で甘さを最大限に引き出した熟成焼きいもをさらに冷凍保存して甘さを凝縮してから焼酎にしています。普通、芋焼酎は1年でできますが、熟成したさつまいもを焼いてまた冷凍保存しますから3年かかります。ネーミングにもこだわりがありまして、「美並の恵 (みなみのめぐみ)」という名前にしましたが、美並とは、かすみがうら市内に存在した美並村のことです。この地域は古くからさつまいも栽培が盛んで、良質なさつまいもが獲れるとされていたのです。

**船橋**：社長の思いとこだわりが伝わってきますね。

**瀧**：加工品を通じて、多くの人にさつまいもの魅力をもっと知ってもらえればうれしい限りです。

### 契約農家を大切に

**船橋**：契約している農家はどのくらいあるのですか。

**瀧**：鉾田市を中心に約200先の農家と契約しています。先代の代から60年近くお付き合いのある農家もいますよ。

**船橋**：それだけの数の農家と継続的に取引するために気を配っていることはあるのですか。

**瀧**：ひとつ挙げると、契約農家に対する土壌診断を行っています。外部の研究所と連携し、契約農家のさつまいもやごぼうなど農産物づくりにかかせない土の成分を事前に分析し、不足する成分を補い、栄養分の高い土壌を作るところからサポートしています。さつまいもを作るにはこういう肥料を入れた方がいいだとか、肥料は化学肥料じゃなくてなるべく自然の微量元素が良いとか、そのようなアドバイスをしています。5年ほど前から自社の農場でのさつまいも生産を始めたのですが、それも自前で生産することによって、気候による作付けの違いだとか病気への感染の予防だとか、ノウハウが蓄積できると考えたのが大きな要因です。農家は自



分の感覚で作っていることが多いですが、当社が得たノウハウや研究結果を理論的に農家に教えてあげることができます。時には専門家を呼んで農家向けの勉強会なども開催しています。

**船橋**：なるほど。

**瀧**：もちろん、先ほどご紹介したように、契約農家を大切に作る姿勢は変わらずにお付き合いしていますので、『『ひのこや』と付き合っていれば生活が安定する』という安心感はあると思います。当社は大手スーパーなど大きいところと取引していますので、契約農家も安心して作れるのだと思います。

**船橋**：現在の農家を取り巻く状況についてはどのようにお考えでしょうか。

**瀧**：地域の農業は、他の事業と同様あるいはそれ以上に、高齢化と後継者不足という課題に直面しています。当社は農家があつてこそ会社です。短期的に当社だけ儲かったとして農家がいなくなってしまうのは成り立ちません。「働いても働いても儲からない、だったらサラリーマンのほうがよっぽどいい」などとなったら皆農家を続けたり継いだりしませんよね。ですから、いろいろな支援も含めて農家の方から受けた恩恵を還元していきたいと考えています。

耕作放棄地も増えていますが、先ほど申し上げた自前の農場もほとんどが休耕地を借りてさつまいもを生産しています。

先ほど事業を多角化しているというお話をしましたが、お菓子や焼酎などの加工品を通じてさつまいもの魅力が再認識されればさつまいもの需要は当然高

まります。海外への出荷にしても、我が国は人口減少社会ですが世界的には人口は増え食糧は必要とされるはずです。海外の消費者がさつまいもを食べてくれるようになれば、農業を続ける者や継ぐ者も増えるのではないかと考えています。

**船橋**：すべての事業が「農家のため」という強い思いに支えられているんですね。

**瀧**：最近の焼いもブームでさつまいもの販売額が増え、私どもの契約農家の方々にも笑顔が戻ってきたように感じています。当社は、昨年、経済産業省が全国の2148社を選定した「地域未来牽引企業」の1社に選ばれました。また、今年も、同じく経済産業省の「はばたく中小企業・小規模事業者300社」にも選ばれました。いずれも地域の特性を活かしたり海外の需要を取り込んで地域に貢献したりといったことを評価していただけたと考えています。今後も引き続き、契約農家の方をはじめ地域の皆様との連携を大事にしながら、安全でおいしい農作物の提供に努めていきたいと考えています。

## 社長のオフタイム

**船橋**：オフタイムはどのようにお過ごしなんですか。

**瀧**：魚釣りが好きなんです。山の中で釣りをするのが好きなのでつばら溪流釣りをしています。

**船橋**：どのあたりの溪流に行かれるのですか？

**瀧**：岩手県や青森県、北海道まで行くこともあります。あの自然の中で釣りをするのが何ともいえずいい。釣れても釣れなくてもいいんだと思っています。

**船橋**：泊まりがけで行くんですか。

**瀧**：3日間ぐらいかけて行くことが多いですね。例えば、仕事終わって夕方5時ごろ出発して、翌朝到着したら釣りをして、その晩は民宿などに泊まって。もう一日釣ってから帰途に就くという感じで動いています。

**船橋**：タフですね。

**瀧**：そうですね、肉体的には疲れますが、精神的にはスカッとしてリセットできますよ。一つだけ問題があるのです……。熊が出てくるのが怖いんです。すでに何度か遭遇しているのですが(笑)。



## ブックエースのビジョンと社会で働く意義

株式会社ブックエース 代表取締役社長 奥野 康作 氏



5

当社は、エンターテインメント事業、Tポイント事業、外商事業、外食事業、コペルプラス事業、書店コンサルティング事業を行っている。「ブックエース・川又書店」は茨城県、福島県、千葉県で26店舗を展開し、茨城県ではNo.1の書店チェーンである。第1号店の茨大前店は1986年にオープンし、レコード、ゲーム、ビデオも取り扱い夜遅くまで開店している書店として現在まで好評を得ている。2号店の東海店は1988年に開店したが、当時はレンタルレコードをテープで録音することが通常であった。さらにビデオも普及し始めた頃であったため、開店時は長蛇の列ができた。

書店業界は、委託制度のもと、書店は出版社から取次店を通して本を預かり販売する役割を担っており、売れ残った本は返品が可能である。現在、出版社は3,400社、取次店は21社、書店は10,500社ある。また、価格については再販売価格維持制

度により、書籍は文化維持のために定価での販売を義務付けられている。2018年度で一番売れた本は、吉野源三郎原作の『漫画 君たちはどう生きるか』であり、この本の漫画を書いている羽賀翔一氏は茨城県出身である。本の販売額は、2.5兆円だった1998年から、2018年は1.3兆円とほぼ半減した。書店数も1999年の2.2万店から2017年には1.2万店と1万店減少している。

このような中、当社は、「NETには無い居心地の良い空間、ここにしかないサービスのある書店」というビジョンを掲げ、「Book & Café」とのコンセプトで2015年には川又書店エクセル店をリニューアルした。スターバックスコーヒーとのコラボレーションで行うこのスタイルを地方書店と一緒に行うのはこの店だけである。

実は、コーヒーに含まれるカカオには、集中力を高める作用があるため、コーヒーを飲みな

がら本を読むと、本を買いたくなると考えられる。実際に販売額は1.3倍、一人あたり単価は1.2倍となっている。この翌年、LALAガーデンつくば店も同様のコンセプトでオープンした。この店はSAZAコーヒーとのコラボである。茨大前店も2016年に全面リニューアルした。

2つめのビジョンは「地域を笑顔に元気にする会社」である。ネットができない地域密着の取り組みとして、小学生読書マラソンや大学生ビブリオバトル選手権を実施しており、これは本好きの人を増やす需要創造の取り組みである。その他、水戸ホーリーホックと連携したり、音楽フェスを後援している。当社は販売系、商品系、管理系、営業系、指導職系の各部署があり、さらに地方書店では珍しい広報室を設置している。

結びに、働くことの意義とは、仕事を通じて社会に貢献し、自分自身が成長することである。現代は自己実現欲求を求める時代であり、仕事を通じて自分になりたい自分になることができる。また、学生時代には、何でも積極的に一生懸命に取り組むことが重要である。気持ちを込めて経験を積み、挫折を味わうことも重要である。学生の皆さんには、志高く夢・希望を持って進んでいただきたい。

## 東日本技術研究所の経営理念と社会で働く意義

株式会社東日本技術研究所 常務取締役 田山 治氏  
取締役 安島 宜績氏



当社は1985年に設立し、本社は日立市大みか町、事業内容としてITシステム開発を主にやっている。具体的には、エンベデッドシステム開発、設備監視制御システム開発、基幹系情報システム開発、医療情報システム開発・販売を行っている。

経営理念は、「ユニークな技術力を持つ、東日本で一番のベンチャー企業として社員満足度を上げ、お客様に喜んで頂けるソリューションを提供し、地域に密着し貢献する会社づくりを目指す」である。現在、正社員1,000名体制、売上高80億円などを目標として事業を展開している。

業界動向としては、東京オリンピック対応の投資、企業の業務効率化や人材不足対応の投資、さらにAIやIoT活用の研究開発投資等の増加も見込まれ、IT市場も概ね好調に推移している。当社は受託型からソリューション提案型・サービス提供型への

シフトをめざしている。

当社で働くことに求められる資質・能力には2つの側面がある。1つは、ITエンジニアとして、資質は論理思考、能力はIT基礎とプログラム開発、システム化技術、プロジェクト管理、資格は基本情報技術者試験などが求められる。2つ目は、事業拠点のビジネスマンとして、資質はネアカ思考、能力は時間管理、伝える力、コーチング、リーダーシップ、予実管理、資格はビジネスマネジャー検定試験などが求められる。

社会で働く意義を考えてみたい。働く意味・理由は、収入を得ることと社会に貢献することである。しかし、これだけで70歳まで働き続け、苦難やストレス、理不尽を乗り越えられない。自信や成長感を得るためには、自分にしかできないことを仕事にすること、やりたいことを仕事にすること、始めた仕事を好きになることが必要である。

身につけてもらいたい能力としては、ポジティブシンキング、ロジカルシンキング、自己管理能力、パソコン活用術があり、磨いてほしい能力としては、コミュニケーション能力、ドキュメンテーション能力、プレゼンテーション能力がある。

最後に、激動する現代で社会に出る学生の皆さんには、ぜひとも「変化に順応する（自ら考え行動する）能力」を身に付けていただきたい。生活習慣や心がけを少し変えるだけで能力アップが可能である。

## 総務委員会

第9次中期運営要綱骨子を検討

総務委員会（委員長 西野英文氏（株）常陽銀行常務取締役）は、9月10日（火）、株式会社シーアンドエーソリューション会議室（ひたちなか市）にて第2回総務委員会を開催。

今回の総務委員会では、令和2年度から令和4年度までの3年間の経営者協会の事業活動指針となる第9次中期運営要綱を策定すべく、その骨子について協議がなされた。

第8次中期運営要綱の振り返り、会員から寄せられている声などから9次要綱策定において検討すべき課題を抽出。また、会員企業や経営者協会を取り巻く環境・時代の潮流を踏まえ、

3年後の目指すべき姿、9次要綱の活動方針（スローガン）、および重点取組事項について、事務局による骨子案を基に活発な協議がなされた。

活動方針については「経営者として連携して地域の発展に貢献していく」「新しい時代に向かって会員の経営の変革・改革に寄与する活動を展開する」ことを念頭に検討することとした。また、これを受けて重点推進項目としては、経営者協会の事業内容の更なる質の向上、会員の事業参画機会の拡大、および会員

への情報発信の強化について特に取組むことを検討していくこととなった。

今後は、今回の総務委員会での協議を踏まえ、9次要綱骨子を取りまとめ、会員から寄せられている声や各支部・委員会・研究会での課題や、取り組んでいる分野別のテーマも踏まえつつ、素案の策定に取り組んでいく予定。



## 経営教育委員会

恒例の国内企業視察会を開催

経営教育委員会（委員長 篠原智氏（株）筑波銀行専務取締役）は、7月17日（水）～19日（金）の間、例年恒例の国内企業視察会を開催。本年は“島根県のものづくり、伝統を学ぶ”をテーマに、島根県所在の①（株）島根富士通、②出雲大社・古代出雲歴史博物館、③足立美術館の3社を訪問した。植木前経営教育委員長、塚田委員ほか、事務局含め17名が参加。

初日、昼前の便で羽田より島根へ向かった一行は、2日目より本格的な視察を開始。

2日目は、午前“出雲大社・古代出雲歴史博物館”を訪問。同神社は、縁結びの神様として知られる大国主大神（おおくにぬしのおおかみ）を祀る日本最古の神社の一つであり、伝統技術の粋を集めて築かれた出雲大社御本殿は松江城と共に国宝に指定されている。

今回は、本殿修造に携わった当協会会員の富田製作所様（古河市本社）からのご縁もあり、通常は見学できない本殿のある建物を囲む塀の内側で、「正式参拝」をし、本殿の周りを見学、

説明していただけることとなった。

到着後、まず、参加者全員での出雲大社正式参拝を行い、その後、同神社の権禰宜である小林氏より本殿周辺の各施設についての歴史的な背景を聞きながら、実際の施設を間近に見学することで、日本の伝統文化への見識を深めることが出来た。

さらに、午後には“（株）島根富士通”を訪問。同社は、ノートパソコン、タブレットの自社工場での生産を行っている日本唯一の企業であり、一貫生産による富士通製ノートパソコンの国



内最大の生産数を誇っている。

他社では海外での生産が多い中、「卓越したものづくり力の追求とものづくり力を活かしたサービス企業への展開」を経営方針に掲げ、品質にこだわり、日本国内での生産に特化した事業を展開しており、ものづくり企業としての評価が高い企業である。

当日はまず、資料と同社作成のムービーにより同社の経営方

針、品質方針、会社沿革についてご説明いただいた後、実際の生産現場を見学させていただいた。ICTを取り入れた人と機械の協調生産によるスマートなものづくりをコンセプトに「健康経営優良法人2019～ホワイト500～」にも認定される等、生産性の向上を働き方改革にもリンクさせている同社の考えは参加企業の経営のヒントに繋がるものと思料される。

最終日については、足立美術館を視察。水戸市出身であり、日本を代表する画家の一人である横山大観の絵画を多数所蔵すると共に、米国の日本庭園専門誌『ジャーナル・オブ・ジャパニーズ・ガーデニング』による庭園ランキングで、「16年連続日本一」に選ばれた庭園を有する同美術館視察を通じ、日本の伝統に親しんだ。



出雲大社にて



島根富士通にて

## 経営教育委員会

第4期 総務担当者向け研修会（2回シリーズ）を開催

経営教育委員会（委員長 篠原智氏 ㈱筑波銀行専務取締役）は、8月29日（木）と9月5日（木）の2日間に亘り、茨城県産業会館にて「第4期 総務担当者向け研修会」を開催。サブ

テーマを“期待される総務担当者になるための基本と実務～庶務的総務から経営的総務へ～”とし、計94名の参加を得た。

講師は第1期より指導頂き、当会経営教育委員会副委員長を務める**社会保険労務士法人葵経営代表の皆川雅彦氏**に引続きご指導頂いた。

参加者アンケートでは「総務部門は

他社との交流の機会も少なく、今回、多くの企業そして異業種の方々との交流が図れた事はとても刺激になったとともに、他社の業務の進め方や運用法はとても勉強になった」、「36協定改定など、働き方改革関連法の情報提供並びに実務上の留意事項などトレンドを解説頂けるのはとても有難かった。まだ自社では未対応の箇所も見受けられたので、しっかり精査していきたい」といった感想が寄せられていた。



産業政策委員会（委員長 鈴木康夫氏 ㈱小松製作所執行役員生産本部茨城工場長）は、9月12日(木)～13日(金)の間、例年恒例の国内企業視察会を開催。本年は“高知県にて日本のものづくりを学ぶ”をテーマに、高知県所在の①㈱太陽、②㈱技研製作所、③ニッポン高度紙工業㈱の3社を訪問した。鈴木産業政策委員長ほか、事務局含め9名が参加した。

初日、午前の便で羽田より高知空港へ向かった一行は、午後に視察先である“㈱太陽”に到着。同社は昭和28年に法人設立。耕耘爪製造メーカーとして全国シェア40%を誇る業界のリーディングカンパニーであり、多種多様なユーザーニーズに応え続け製造された耕耘爪のラインナップは2,000種を超え、それらのニーズに応えるべく培われた高い生産技術にも定評がある。

当日は同社取締役総務部長 小野雅哉氏より会社沿革、事業内容等のご説明をいただいた後、実際に製造現場を見学させていただいた。参加企業からは「業界のリーディングカンパニーとして多種多様な商品を考案し、それを生産する高い技術力にとっても感心した。」「高い国内シェアを誇るだけでなく、海外進出も行う等、常に前進を続ける経営姿勢を当社も見習いたい。」等の感想があった。

さらに、同日に同じ工業団地

内にある、“㈱技研製作所”を訪問。同社は昭和42年1月創業、昭和53年1月に法人設立、建設の五大原則である環境性・安全性・急速性・経済性・文化性を遵守した社会基盤整備を進めている企業であり、特に同社の独自技術であるインプラント工法は防災インフラにおける工法革命として、世界から高い評価を得ている。

当日は、まず同社取締役副社長 森部慎之助氏より、ご挨拶をいただき、会社沿革、事業概要等ご説明をいただいた上で、工場施設内を見学させていただいた。参加企業からは「今まで想像もしていなかった建設工法の発想とそれを具現化する技術力に、非常に感銘を受けた。」「震災の頃に、こういった工法が浸透していれば、被害は大幅に減らせたと思う。早期に全国的な防災インフラに取り組んでいただきたい。」との感想があった。

2日目は“ニッポン高度紙工業㈱”を訪問。同社は昭和16年

に創業し、アルミ電解コンデンサ用セパレータを主力に、グローバルニッチトップ企業として躍進を続けている企業であり、アルミ電解コンデンサ用セパレータ生産の国内シェア95%、世界シェア60%と圧倒的なシェアを誇る。

当日は管理部総務課 関誠一氏より会社沿革や事業概要についてご説明をいただいた後、製造現場を見学した。参加者からは「セパレータ製造において世界トップシェアを誇る御社のモノづくりへの強い想い、こだわりが感じられ、刺激になった。」「品質は工程で作り込むもの、という品質管理への姿勢は是非とも参考にしたい。」といった感想が寄せられた。

その後、高知市内の観光施設を視察し、行程は終了となった。参加企業においては、今回の視察会を通して何か経営のヒントとなる事を発見していただければ幸いと考える。



技研製作所にて

茨城県についてもっと知りたい、知識を深めたい、とのニーズに応えるべく茨城大学の協力を得て、各分野で造詣の深い方々にお話いただく「いばらき塾」の第2回目を下記の通り全4回シリーズにて開催している。

今回は茨城新聞に掲載記事を得たこともあり、一般の方の数多くの聴講があった。

第1講 9月4日(火)《総論》  
「茨城の学問 水戸藩の学問と弘道館」

- ① 「水戸藩の学問とその展開」  
茨城大学名誉教授  
鈴木 暎一氏
- ② 「弘道館と偕楽園 一創設者徳川齊昭が目指したもの」  
弘道館主任研究員  
小坪 のり子氏

第2講 9月20日(金)《ひと》  
「文化・芸術、教育の先駆者たち」

- ① 「岡倉天心 一五浦から世界へ」  
茨城大学名誉教授  
小泉 晋弥氏
- ② 「豊田英雄 一先駆性と功績」  
茨城女子短期大学学長  
小野 孝尚氏

参加者へのアンケートでは、「期待以上の内容」または「期待通りの内容」がいずれの回も95%以上と高い満足度であり、「今すぐ弘道館に行きたい!と何度も思いました。先人の功績の大きさに心を打たれました」、「先生が生涯学び研究された迫力に圧倒されました」などの感動の声が寄せられた。

11月には、第3講と第4講が右記のように予定されており、

これからでも申込み可能。事務局にお問合せください。

第3講 11月12日(火)《産・食》  
「未来へ向かう茨城の伝統産業と食ー結城紬と常陸秋そば」

- ① 「結城紬の魅力と秘密」  
奥順株式会社代表取締役  
奥澤 武治氏
- ② 「茨城のそば文化を考える」  
いばらき蕎麦の会幹事長  
野上 公雄氏

第4講 11月21日(木)《現・観》  
「幕末と明治期の茨城に関連する県内施設の見学及び懇親会」

- ① 幕末と明治の博物館
  - ② 弘道館
- 交流懇親会会場：「常陸秋そば」が食べられるお店にて開催予定



第1講 いばらき塾 鈴木暎一先生



第2講 いばらき塾 小泉晋也先生



第1講 いばらき塾 小坪のり子先生



第2講 いばらき塾 小野孝尚先生

常陸・那珂地区支部主催

“第3期 幹部・中堅リーダー養成講座”を開催

常陸・那珂地区支部(支部長 柳生修氏 コロナ電気(株)代表取締役社長)は9月11日(水)、ホテルクリスタルパレスにおいて、今年で3年目を迎える「幹部・中堅リーダー養成講座～現場を引っ張り、管理ができるプレイングマネジャーを目指す～」をテーマとした研修会を開催。55名が参加した。

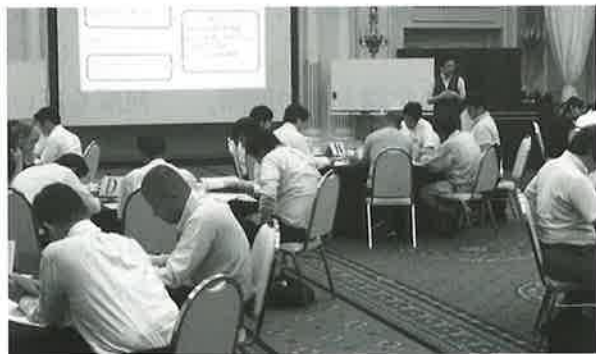
今回より同講座は、企業向け教育サービスを提供する(株)アイ・イーシーのカリキュラムをもとに同社専任講師の丹羽将喜氏よりご指導頂いた。

講座は、企業の発展に欠かせないキーパーソンである幹部・中堅リーダーの方々を対象としたプログラムで構成され、①プ

ロジェクトを進める現場視点、②組織目標を達成するために人と仕事をマネジメントする“プレイングマネジャー”としての役割、③経営者・上司へのフォローシップ、④部下・後輩へのリーダーシップ、⑤職場の課題に対する理解と対策、など多岐に及ぶその役割を理解頂き、リーダーに求められる条件について、複数のケーススタディと他参加者とのグループワークを通じながら“気づき”を得ることをねらいとした。

参加者アンケートでは「考えてい

た以上にグループワークが多く、業種は異なるものの役割&立場が同じ方々との話し合いは共感するとともに、自分と同じような悩みや課題を抱えていると感じた。今回の講習での学びを深掘りし、日々の業務に活かせるよう取り組んでいきたい」といった感想が多く寄せられていた。



幹部・リーダー養成講座の様様

鹿行地区支部 労働問題研究会

鹿行支部労働問題研究会が令和元年度第1回例会を開催

鹿行地区支部(支部長 宮腰寿拓氏 日本製鉄(株)鹿島製鉄所副所長)の鹿行地区支部労働問題研究会(座長 築瀬剛氏 日本製鉄(株)鹿島製鉄所労政人事



室長)は、8月21日(水)、鹿島セントラルホテルにおいて令和元年度第1回例会を開催し41名が参加した。

例会では、サイボウズ(株)チームワーク総研統括ディレクターの和田武訓氏をお招きし「28%の離職率から4%に、サイボウズが取り組む働き方改革のキモ」と題してご講演頂いた。

本年4月から順次施行される“働き方改革関連法”においても従来の労務管理から大幅な見直しが求められるなど大きな影

響を与えている最中、「働きがいのある会社ランキング」に6年連続ランクインしているサイボウズでは、遡ること15年前に“離職率28パーセント”の危機を経験。“社員が次々と辞めていくのは何故だろう”、苦勞して採用し“一緒に頑張ろう”と語った人達が次々と辞めていく負の循環に陥った。悪循環を断ち切るべく、同社は社員個人個人の価値観を踏まえた“多様な働き方”を受け入れるように舵を取り、社内改革を推進し続けた



ところ、定着率が回復し売上げも上がっていった。和田氏は「私自身も一度サイボウズを退社した“出戻り社員”であり、そのような社員も少なくない。他社の働き方を経験し、改めてサイボウズでチャレンジしたい、と思った人を受け入れる度量が当社にはあった。価値観や考え方は本当に人それぞれであり、多様な人達がいることをしっか

りと組織が認識することが大切だと感じている。一人一人の意見を拾い上げ、可能な限り地道に対応していくことが現代の組織に求められているのではと考える」と語られ、これまで取り組んできた具体的な施策や改革を進めてきた社内制度について解説頂いた。

参加者アンケートでは「自社はITと異なる業種であるが、

社員から寄せられる要望やニーズに対し、一つ一つ向き合い真摯な対応を進める姿勢にはとても感銘を受けた」「実際にサイボウズが取り組まれている社内制度を自社へ導入することは困難だと感じたが、組織を良くするためのヒントは沢山頂いた」といった感想が寄せられた。

## 茨城県最低賃金改定

1. 茨城県最低賃金は令和元年10月1日(火)から「時間額 849円」になりました。

問合せ先：茨城労働局賃金室

電話 029-224-6216

2. 最低賃金引上げに向けた支援策については

- ①ワン・ストップ無料相談窓口

相談窓口：茨城働き方改革推進支援センター

電話 0120-971-728

- ②業務改善助成金

問合せ先：上記センター又は

茨城労働局雇用環境・均等室

電話 029-277-8294

- ③キャリアアップ助成金

問合せ先：茨城労働局職業対策課

電話 029-224-6219



# PRIUS PHV



## 茨城トヨタ自動車株式会社

水戸市千波町 1887 〒310-0851

TEL 0120-090110

<https://www.ibaraki-toyota.jp/>

Drive Your Dreams。人、社会、地球の新しい未来へ。



# 「多様な官民プラットフォームを 活かして茨城を元気に」

日本貿易振興機構(ジェトロ)茨城貿易情報センター  
所長 木ノ本知弘

本年5月24日、海外ビジネスを促進し、グローバル経済に対応した産業振興を目的として、県庁主導の新たなプラットフォーム「いばらきグローバルビジネス推進協議会」が立ち上がった。県内171社の参加を得て動き出した官民一体型の同協議会は、何を目指して、どこへ進もうとしているのだろうか。

## ＜輸出で一番の県に＞

これまで、茨城県には同協議会のような推進母体がなかったわけではない。むしろ「いばらき海外進出サポート協議会」、「いばらき農林水産物等輸出促進協議会」、「茨城・ベトナム交流推進官民協議会」の3つの協議会が対象業種や対象国を特定してそれぞれに活動していた。今回の新協議会は、これら3協議会の活動を発展的に引き継ぐことで一体化し、従来の取組みを強化させる狙いがある。

ただし、新協議会の名が示す「グローバルビジネス」の対象は幅広い。横断的な運営を目指す一方で個社の関心は特定されているため、「ものづくり部会」と「食品部会」の2つの部会が協議会内に設置されることとなった。

それぞれの部会に参加する企業は73社と98社。参加企業の中からは、自分たちが海外展開の先行事例になって、「輸出で一番の県になろう」との意気込みも聞かれる。

## ＜多様性から得られるもの＞

海外展開に対する各社の強い意志によって、部会の議論は常に白熱する。熱を帯びる背景には、これまで企業間の意見交換の機会がほとんどなく、個々の試行錯誤と支援活用の結果が県内の輸出実績を積み上げてきたことがある。

食品部会98社の品目内訳を見ると、青果物26社、加工品25社、水産物16社、コメ10社、畜産物5社などであり、売りたい相手は海外のスーパーなど小売りなのかシェフなどレストランなのか、その価格帯に対する考え方も一様ではない。まずもって各社の輸出に対する経験や戦略・体制・体力が異なることを理解しなければ、結局は協議会が機能せずに個々の努力に委ねることとなる。

したがって、これまでに機会がなかった参画企業同士の意見交換は有意義であり、その相違

の中から生まれる共通の支援ニーズに対し、行政及び支援機関は真摯に向き合うことが求められる。

## ＜参画することが第一歩＞

たとえば、食品部会の中でも輸出経験が豊富な企業間の議論では、県が重点国として掲げている香港、米国、シンガポール、ベトナムについて、「いまさら」といった意見が相次いだ。たしかに、原発事故に伴う放射性物質の規制から茨城県が輸出できない中国などの国・地域を除き、重点4カ国は日本の農水産品・食品輸出相手の主要上位国である。いわゆる「ブルーオーシャン」を考えるべきという意見がきっかけとなって、協議会では部分的にも新たな市場開拓の検討を始めることとなった。

幅広い事業者が参画しているからこそ、オール茨城で考えれば海外展開に活かせる県内事業者の情報やノウハウは意外に多く、それらを共有することで取引のパイプを太くすることができる。個々にはハードルが高いブルーオーシャンも協議会として狙えるいま、こうした協議会事業に関心を持った企業があれば、一緒に議論を深め、1社でも多くの海外展開を成功させたい。海外ビジネスの経験が乏しくても、その意見が多様性を増すことにつながるため、172番目の参画企業としてぜひ新協議会に関心ある県内企業は、一歩踏み出すことを期待したい。

## いばらきグローバルビジネス推進協議会の役員

会長	茨城県	営業戦略部長 堀江英夫
副会長	ジェトロ茨城	所長 木ノ本知弘
	茨城県中小企業振興公社	専務理事 今橋裕磨
	ものづくり部会長	株式会社協立製作所 代表取締役社長 高橋日出男
	食品部会長	全国農業協同組合連合会茨城県本部 県本部長 鴨川隆計
監事	常陽銀行	市場国際部長 片田泰宏
	筑波銀行	執行役員 ビジネスソリューション部長 山田孝行

## いばらきグローバルビジネス推進協議会の事業内容 ※茨城県庁ウェブサイトより

営業活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>県産品の輸出促進を図るため、国内外において営業活動を実施</li> <li>海外バイヤー等へ県産品の情報発信を図るため、協議会会員の商品・組織情報、商談申込先等を周知するためのホームページを作成</li> </ul>
県産品の販路開拓活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>シンガポール、ベトナムに専門スタッフを配置し、支援対象商品の売込みを実施するとともに、サンプル輸送費用等を支援</li> <li>東南アジア等から県内にバイヤーを招へいし、事前マッチングを行ったうえで商談会等を実施</li> <li>Food Expo (ベトナム) への出展支援を行い、個別商談を実施</li> <li>地銀連携ものづくり商談会 (タイ・ベトナム・上海) を共催</li> </ul>
情報提供等	<ul style="list-style-type: none"> <li>会員企業間の情報共有及び交流を図るため、セミナー、工場見学等を開催</li> <li>メーリングリストにより、セミナー開催情報等を提供</li> </ul>

## 子どもたちと家族の やりたいことを叶える

茨城NPOセンター・commons 代表理事 横田 能洋氏

大阪で同じようなNPO支援の仕事をしてきた仲間が転職したある施設を訪ねました。TSURUMI こどもホスピスという施設です。ホスピスというと重い病気で積極的な治療は行わず静かに最後の時間を過ごす入所施設をイメージしますが、そういうものとは全く違っていました。施設は、大阪の大きな緑地公園の一角にあり、木のぬくもりが感じられる大きな家のようにでした。丸い芝の庭を囲む2階建ての建物は家族で宿泊できる部屋がいくつかあります。ペンションのようでもあり、沢山の素敵なおもちゃがある部屋、音楽が楽しめる部屋など子どもにとって夢のような空間がいくつかありました。

「子どもたちと家族のやりたいことを叶える」が、この家の目的です。生まれてから一度も病院をでたことがない子ども、医療的ケアが必要で旅行や外泊が難しい子どもと家族は、普通のことになかなかできません。この家なら、看護師などのケアスタッフのサポートのもとで夢を叶えられるのです。以前テレビでメイクウイッシュジャパンという団体の活動をみたことが

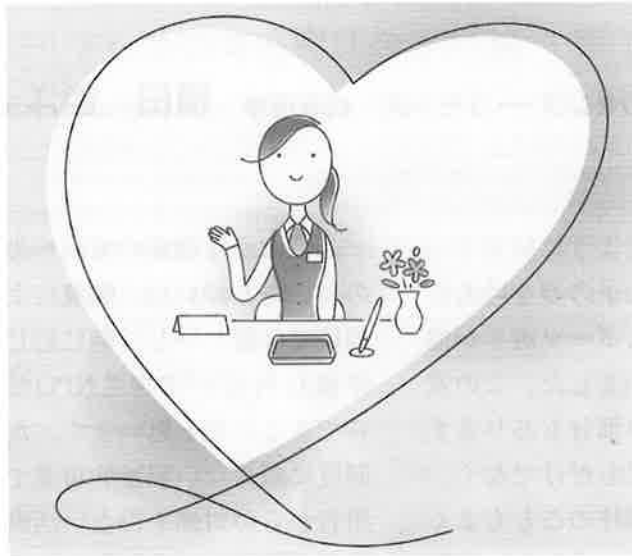
あります。同じように病気やハンディを抱えた子の夢を叶える活動で、プロスポーツ選手が協力したりしていました。この家は、それに近い部分もありますが、病気の子もだけでなく、その親や兄弟姉妹のこともよく考えていると思いました。実際、この施設の代表の方はそうした家族の方です。命を脅かされた状態にある子の保護者の願いをもとに寄付でつくられ、運営費も寄付で賄われています。また、多くのボランティアが施設の維持管理や楽しい企画の運営を行っています。チャリティーマラソンで寄付をする人もいます。利用したい人は、病院からの推薦や家族の応募をもとに選ばれます。この家は施設ではないので、常に利用する人がいるわけでもなく、決められたプログラムもありません。好きな遊びをするでもいい、はじめて屋外でピクニックをするでもいい、願いが叶えられたときの子どもの笑顔と楽しい時間が、家族の宝物になります。子どもが亡くなることもあります。家族は、こどもの記憶と思い出がある場に来ることで心を癒すことができます。

このような個別の家族への息の長い寄り添いは、制度による福祉では難しいし、個に応じた柔軟な対応ができるNPOだからできるのだと思います。ただ、制度に頼らない福祉的事業で利用者からの対価を得ない活動は寄付が無ければ成り立ちません。

こどもホスピスはイギリスが発祥とのことで、同国にはいくつもあるそうです。イギリスといえば、寄付の仕組みが発展した国です。日本ではこの大阪のこどもホスピスが最初の取組みで、私の友人も、このNPOのファンドレイジングを担っています。毎年2,500万円を越える寄付を得るのは容易なことではないでしょう。私の仲間は素晴らしい団体に転職したと思いつつ、チャレンジングな職場を選んだなと思いました。分野や対象は違えど、このような、一人ひとりの願いを叶えようとする活動が各地にあります。そうした活動が増えること、応援する人が増えるようにすることに取り組んでいこうと思います。

TSURUMI こどもホスピスのウェブサイトは  
[www.childrenshospice.jp](http://www.childrenshospice.jp)

# 人に優しい銀行をめざして



常陽銀行はどなたでも  
ご利用しやすい銀行を  
めざしています。



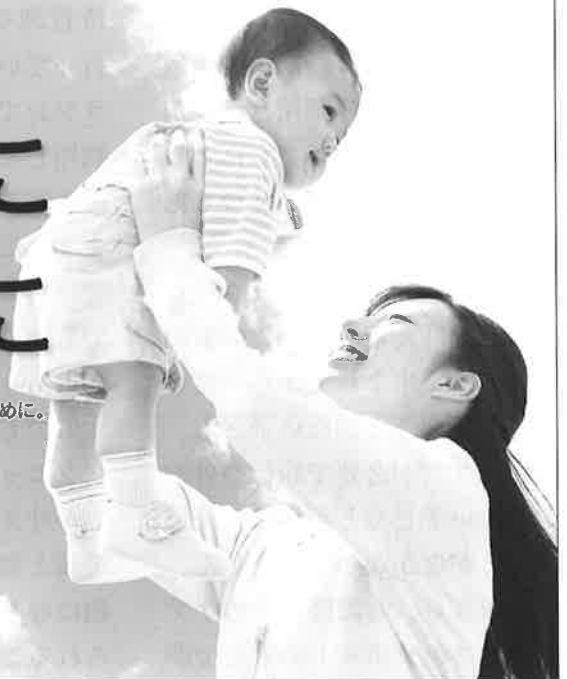
常陽銀行

**MEBUKI**  
めぶきフィナンシャルグループ

# 地域のために 未来のために

筑波銀行は、より充実した金融サービスのために。そして、もっと豊かな日々の暮らしのために。

地域エリアの皆様とともに、未来に向かって力強く前進いたします。



<http://www.tsukubabank.co.jp>

筑波銀行

検索する



筑波銀行

Tsukuba Bank



# セミナー開催・事業案内

開催月	日時／場所	事業内容
10月	28日(月) 13:30～ 16:50 県産業会館 参加費2,000円/名	<p>◆環境セミナー</p> <p>テーマ：国内外のプラスチック規制の最新動向とプラスチック廃棄物管理 ～各省庁・自治体の取組みと政策動向、今後求められる企業対応などについて解説～</p> <p>講師：佐藤泉法律事務所弁護士 佐藤泉氏</p> <p>【内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 日本におけるプラスチックごみ問題に関する規制・政策の動向</li> <li>② 企業の自主的取組みと新しい技術、今後の対応と課題</li> <li>③ 世界におけるプラスチックごみ問題に関する規制動向</li> <li>④ リサイクルビジネスの実態、技術の現状、今後の課題</li> </ol>
	29日(火) 13:30～ 17:00 県産業会館 参加費8,000円/名	<p>◆第18期 取締役・役員のためのマネジメント講座（4回シリーズの第2講）</p> <p>テーマ：取締役・役員の役割、責任、必要事項をテーマ毎にシリーズで学ぶ</p> <p>講師：関・山形法律事務所弁護士 山形学氏</p> <p>【内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 取締役の義務と責任の問題は広範囲に及ぶ</li> <li>② 取締役の義務について最低限知っておくべきこと</li> <li>③ 取締役の責任の取り方について最低限知っておくべきこと</li> <li>④ 最近の企業経営に関わる法的リスクについて</li> </ol>
11月	6日(水) 13:30～ 16:30 オークラフロンティア ホテルつくば 参加費無料	<p>◆「働き方」改革実行セミナー</p> <p>テーマ：ITツールを用いた“業務の見える化”による働き方改革と未払い賃金リスク管理</p> <p>講師①：鳥飼総合法律事務所弁護士 川久保皆実氏 講師②：シンプルウェイ代表取締役 大野裕介氏</p> <p>【内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 働き方改革関連法による時間外労働の上限規制・年休の時季指定義務のポイント 裁判例をふまえた未払い賃金リスク回避のポイント</li> <li>② ITツール「Log+（ログタス）」を用いた働き方改革実践事例、年休消化100%、時間外労働平均10時間以下で営業利益率を大幅アップさせた具体的事例、Log+（ログタス）の具体的な活用方法とシステム導入のポイント</li> </ol>
	6日(水) 13:40～ 16:00 東京都江東区豊洲 参加費2,500円/名 ※視察後、交流会併設	<p>◆先進施設視察会</p> <p>テーマ：世界規模の卸売市場“豊洲”に学ぶ～日本の食文化を肌で感じる～</p> <p>【テーマ】</p> <p>築地市場より移転し、間もなく取引開始から満1年となる豊洲市場は、50年先まで見据えた首都圏の基幹市場として築地市場が果たしてきた、①豊富で新鮮な生鮮食料品流通の円滑化と価格の安定という機能に加え、②消費者の意識が高まっている食の安全・安心の確保、効率的な物流の実現などと共に、③環境にも配慮した先進的な市場とすることにより、築地市場の築いてきた歴史と伝統を継承・発展させ、④産地や顧客・消費者の様々なニーズをはじめ、豊洲市場の魅力＝ブランド力を高めていくことを目指している。</p>

開催月	日時／場所	事業内容
11月	7日(木)～ 8日(金) 両日とも 9：30～ 17：00 県産業会館 参加費20,000円/名	<p>◆<b>第18期 ISO14001内部監査員養成研修会</b>            講師：ISO14001 主任審査員 中井邦治氏</p> <p>【内容】  <b>(1日目)</b>            ・ガイダンス、ISO規格の解説、規格の理解度チェック、内部監査とその技法について、不適合判定力チェック、宿題（チェックリストの作成について）  <b>(2日目)</b>            ・ロールプレイング（監査の模擬訓練：チームミーティング、チェックリストの作成、オープニングミーティング、証拠の収集、クロージングミーティング、講評）・修了テスト（理解度チェック）、総評、修了証書授与</p>
11月	12日(火) 15：30～ 18：15 ザ・カナルハウス  ※聴講無料 ※交流パーティ参加費 5,000円/名	<p>◆<b>講演会・交流パーティ</b>            テーマ：嫌われる勇氣            ～アドラー心理学から見る、職場での人間関係の築き方～            講師：哲学者 岸見一郎氏</p> <p>【内容】            (岸見講師プロフィール)            京都大学大学院文学研究科博士課程満期退学。専門の哲学（西洋古代哲学等）と並行して、1989年からアドラー心理学を研究。精力的にアドラー（オーストリア出身の精神科医・心理学者）の心理学や古代哲学の執筆・講演活動のほか、精神科医院などで多くの“青年”のカウンセリングを行ってきた。大ベストセラーとなった「嫌われる勇氣」は、2015年ビジネス書ランキング1位を獲得し、韓国でも2015年間ベストセラー1位となる。同書はドラマ化され放映。その他著書に「幸せになる勇氣」「人生を変える勇氣」「よく生きるために働くということ」がある。</p>
	15日(金)  12：00～ 13：30  筑西市・荒為	<p>◆<b>ランチセミナー</b>            テーマ：茨城の経営者が今考えるべきこと            講師：経済評論家 中原圭介氏</p> <p>【内容】            開催時間を昼時とし、地域の銘店で昼食をとりながら、講話と情報交換ができるセミナーを開催致します。講師には、新聞・雑誌やラジオ、著書など、資産運用の専門家として活躍され、日本を代表する経済評論家の中原圭介先生をお招きする。</p>
	19日(火) 大洗ゴルフ倶楽部	<p>◆<b>経協チャリティコンペ会員交流会</b>            ・8：30受付開始、9：15 OUT・INスタート（各5組予定）。            ・競技後、表彰式と交流パーティを開催致します。            ※チャリティの益金は、自殺防止のための活動に取り組まれている“茨城いのちの電話”に寄贈をさせて頂く予定です</p>

開催月	日時/場所	事業内容
11月	25日(月) 13:30～ 16:30 つくば国際会議場 参加費3,000円/名	<b>◆営業・接客・社内コミュニケーション技術向上セミナー</b> テーマ：心を疲弊させない、心が軽くなる、 営業・接客・社内コミュニケーション技術(スキル)の向上 講師：印象エキスパート代表取締役 柳沼佐千子氏 <b>【内容】</b> ① 「なんとなく感じが悪い」は3ステップで直せます ② 好かれる顔、好かれる話し方は誰でも習得できる技術 スキルです ③ 人を惹きつける身振り(フォーム)を作りましょう ④ 相手の「空気を読まず」に「伝える」技術を磨きましょう 他
	28日(木) 13:30～ 17:00 県産業会館 参加費8,000円/名	<b>◆第18期 取締役・役員のためのマネジメント講座(4回シリーズの第3講)</b> テーマ：簡単にわかる!決算書の見方・読み方 講師：財務リスク研究所代表取締役 横山悟一氏 <b>【内容】</b> ① 黒字でもキャッシュが残らない理由 ② 経営者は損益計算書よりもバランスシート感覚が重要 ③ ビジュアル分析で資金繰りの勘所をつかむ ④ 実際の企業決算書を題材になぜ破綻したのか分析する ⑤ 金融機関との付き合い方
12月	5日(木)～ 6日(金) 両日とも 9:30～ 17:00 県産業会館 参加費20,000円/名	<b>◆第18期 ISO9001内部監査員養成研修会</b> 講師：ISO9001 主任審査員 柴田泰比古氏 <b>【内容】</b> <b>(1日目)</b> ・ガイダンス、ISO規格の解説、規格の理解度チェック、内部監査とその技法について、不適合判定力チェック、宿題(チェックリストの作成について) <b>(2日目)</b> ・ロールプレイング(監査の模擬訓練:チームミーティング、チェックリストの作成、オープニングミーティング、証拠の収集、クロージングミーティング、講評)・修了テスト(理解度チェック)、総評、修了証書授与
	11日(水) 13:30～ 17:00 県産業会館 参加費8,000円/名	<b>◆第18期 取締役・役員のためのマネジメント講座(4回シリーズの第4講)</b> テーマ：コンプライアンス経営の推進 ～経営幹部の役割とリーダーシップ～ 講師：(一社)経営倫理実践研究センター特別首席研究員 田中宏司氏 <b>【内容】</b> ① 企業不祥事と社会の視線 ～最近の企業不祥事を踏まえて～ ② コンプライアンス経営の推進 ③ 経営者の立場からの配慮 ④ ケーススタディー

## 経営労務相談(無料)のご案内

当協会では経営労務相談の機能を強化し、会員企業様が抱える経営課題の解決に向けたサポート体制を整えております。

協会の顧問弁護士、社会保険労務士、税理士、経営コンサルタント等の各分野のエキスパートが様々な経営課題の解決に向けたアドバイスを致します。

- 開催日** 毎週木曜日 ①10:00~12:00 (祝日は除く) ②14:00~16:00
- 会場** 経営者協会・相談室 (水戸市桜川2-2-35 茨城県産業会館11F) 水戸駅南口より徒歩5分。
- 申込方法** 下記TEL・FAXまたはE-mailにて各開催日の2日前までにお申込み下さい。

### Flow chart

<b>賃金関係</b>	未払い残業代を請求されたがどのように対応すればよいのか？
<b>労働組合</b>	従業員の一人が加盟した労働組合から団体交渉を申し入れられた。交渉にどのように向かえばよいのか？
<b>助成金制度</b>	人員整理を回避するためにはどのような方法があるのか？活用できる助成金制度について教えて欲しい。
<b>人事労務</b>	人事制度の変更を行うとしたが、従業員から不利益変更ではないかと訴えがあった。
<b>精神疾病</b>	メンタル不全の従業員がトラブルを起こしたがどのように対応すべきか？
<b>その他</b>	事業承継の問題、資金繰りの問題、経営に関するこの課題全般の悩みについて。

人事労務相談室  
が総合窓口  
(ワンストップ)

課題解決に最適な専門家を紹介



お問い合わせ：一般社団法人茨城県経営者協会 事務局(後藤)  
TEL：029-221-5301 FAX：029-224-1109  
E-mail gotou@ikk.or.jp